

私立大学図書館協会東地区部会研究部 2009年度 研修分科会

外部資金獲得と 図書館マネジメント

明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務室

中林 雅士

目次

- 補助金概要
- 大学内の図書館プレゼンスと補助金
- 図書館とステークホルダー
- 補助金獲得に向けて
- 図書館マネジメントと補助金
- まとめ

補助金概要(私立大学への補助金)1

- 教育研究条件の維持向上
- 修学上の経済的負担 軽減
- 学術研究振興・高等教育の高度化の推進
- 研究設備・情報処理関係施設・IT設備の充実

大学の研究・教育活動の支援が主目的

→ 約4,488億円(平成20年予算額)

補助金概要(私立大学への補助金)2

- 私立大学等経常費補助金(日本私立学校振興・共済事業団) http://www.shigaku.go.jp/s_home.htm

私立大学等の教育研究活動を活性化を促進するための助成

- 一般補助 213, 597百万円
→ 大学運営経費を申請に基づいて配分
- 特別補助 100, 529百万円
→ 特色ある事業ごとに申請して、採択されたものに配分

補助金概要(私立大学への補助金)3

■ 特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)

(文部科学省・財団法人 大学基準協会)

大学教育の改善に資する種々の取組のうち、特色ある優れたものを選定し、選定された事例を広く社会に情報提供することで、今後の高等教育の改善に活用する。

• 平成18年度採択件数

【学士課程】 31件／220件

【短期大学学士課程】 10件／64件

【修士課程】 7件／47件

合計 48件／331件(採択率14.5%)

大学内の図書館プレゼンスと補助金1

大学内での図書館の位置づけ → 必要であるが、優先順位は低い

厳しいがこれが現実

- 蔵書数・図書館施設に関する基準の緩和
- 電子資料の普及に伴うサービス形態の変化
- 図書館の専門性に関わる事項 →

業務委託化による大学内専門家の削減

図書館の重要性を訴える専門職の減少

→ 大学内優先順位の低下

大学内の図書館プレゼンスと補助金2

大学内での優先順位の低下 → 予算削減ターゲット



図書館への投資に対するリターンが見えにくい

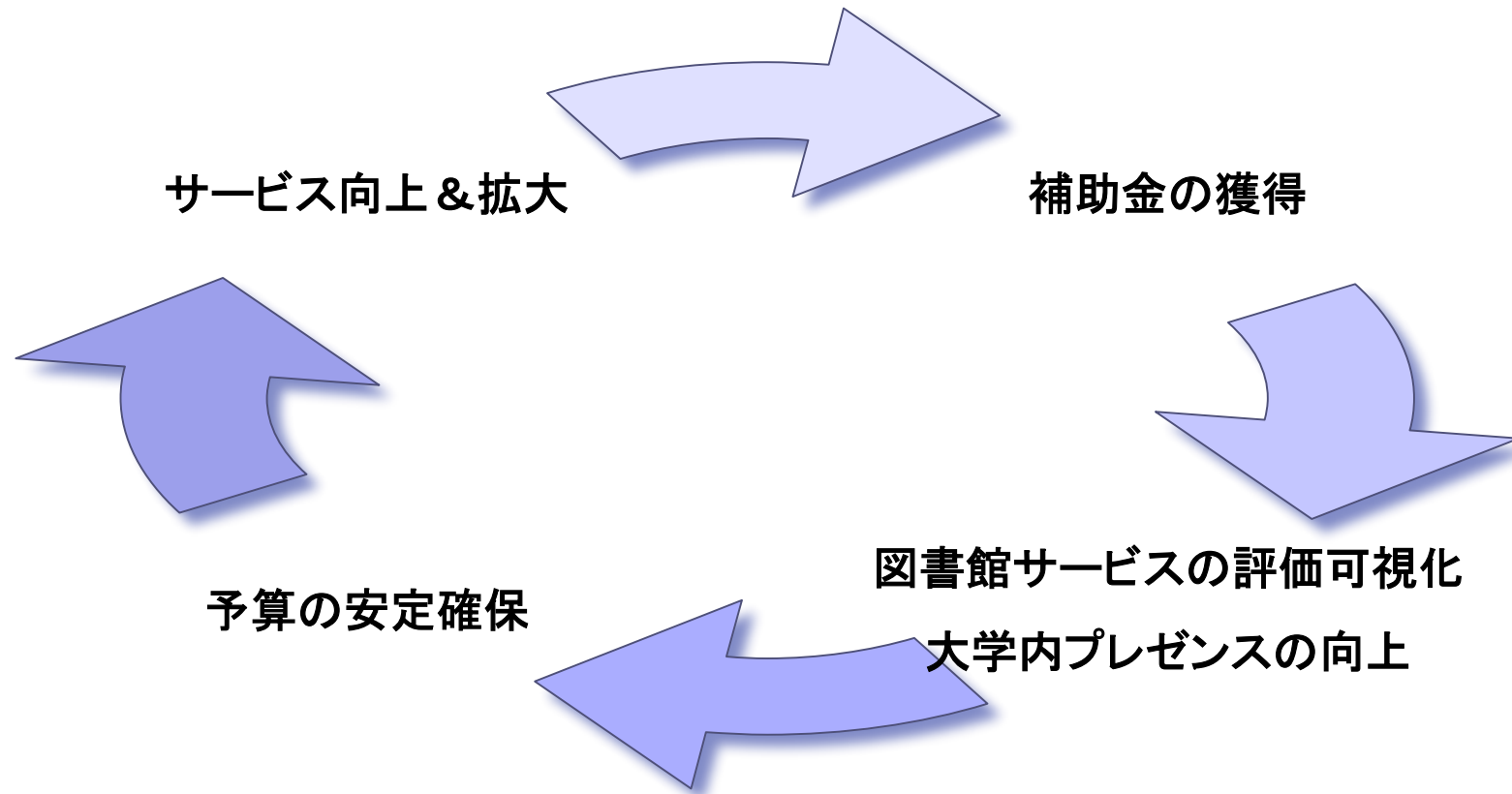
- 図書費を増やすことによって得られるメリットの数値化
- 図書館運営費を増やすことによって拡大するサービスの数値化
- 既存・新規事業の客観的評価とコストパフォーマンス



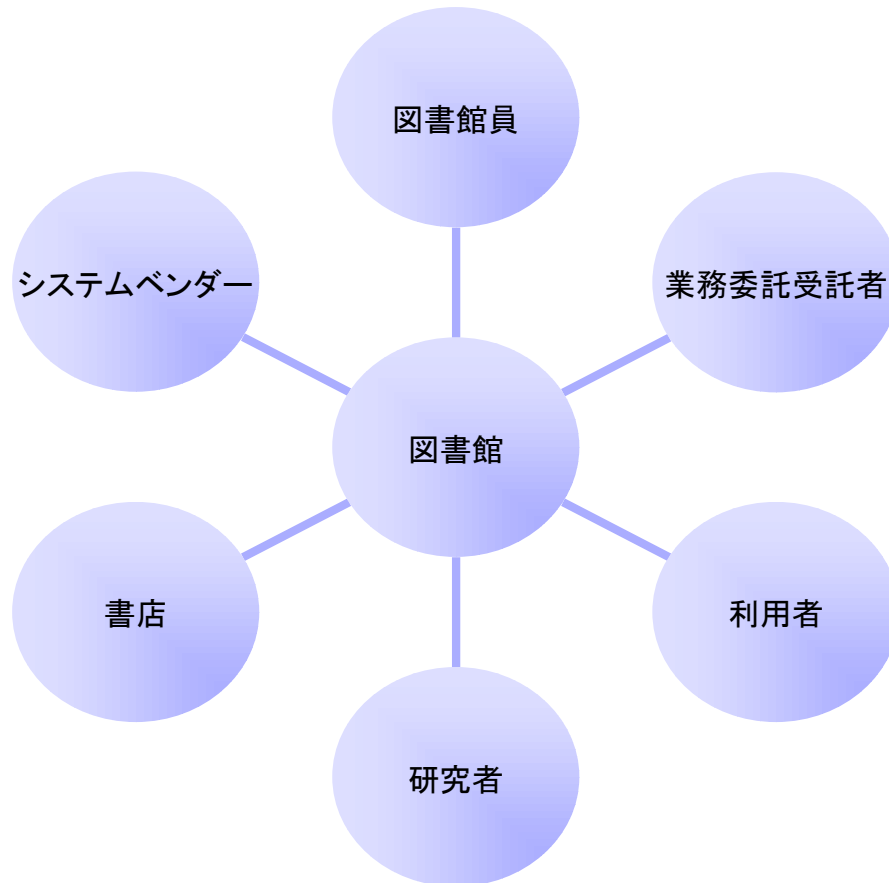
大学がメリットを認識できれば、学内プレゼンスを上げられる。

→ 補助金獲得による外部評価の獲得

大学内の図書館プレゼンスと補助金3



図書館とステークホルダー



- 図書館運営に不可欠
- 図書館予算の執行先
- サービス享受者

図書館の持つ資金は多くのステークホルダーに不可欠



図書館運営には、協力が不可欠

補助金獲得に向けて1

- **まずは、図書館の事業内容と予算執行状況を把握する。**
 - 図書館で提供しているサービスの洗い出し
 - これから実施したい事業の内容と必要経費
 - 予算費目は？事業目的は？効果は？実際の経費は？
 - 人件費以外は補助金の対象になりえる
 - 小額経費でも、目的を統一すれば対象になる。
 - その予算執行に明確に差別化できる目的はあるか？
 - 予算組みは適切か？
 - 地域連携をしていないか？他大学とのコンソーシアムは？

補助金獲得に向けて2

■ 補助金の申請項目を理解する

- どのような事業が申請対象となっているか？
- 事業団はどのような事業を好ましいと考えているか？

教育・研究活動の積極的なサポート

設備・施設の充実

IT設備などの教育・研究設備の高度化

大学独自の取り組み

地域・大学間連携事業

- 事業団による助成の体系や補助金額の仕組み
- もし採択されなくても、失うものはなにもない
- 事業団は補助金をできるだけ配布したい

補助金獲得に向けて3

■ 例えば図書費は.....

- シラバスをすべて図書館で収集している
- 大学関係者の資料を重点的に購入している
- 研究者の要望で高額資料を購入する
- 特殊なコレクションを継続して収集している。
- 貸出回数が多い資料を重点的に収集している。

.....など

図書費を目的別に分割して割り振り, 特定事業に特化する

→大学独自の事業として補助金を得られる可能性大

→いかにその目的と効果を明示的に説明できるか(プレゼンスキル)

特別補助

- 学部教育の高度化・個性化メニュー群
- 教育・学習方法等改善支援

補助金獲得に向けて4

■ 申請できるものはすべて申請する

- データベース(書誌・所蔵データベース)構築費 : 業務委託費
- 図書館システムの維持費 : リース費
- 電子ジャーナル維持費 : 支払手数料

高度情報化推進メニュー群

- 教育学術情報ネットワーク支援
- 情報通信設備(借入)支援
- 教育研究情報利用支援

■ 変化があるところに補助金のタネがある

- 施設・設備改修
- 委託範囲拡大・機器導入

補助金獲得に向けて5

■ 補助金獲得のためのTIPS

- 予算組を目的別にすると、補助金申請可能事業が見えてくる
- 恒常的な業務も、見方を変えれば大学の特色的な事業となりえる。
- 常に大学・図書館の予算執行に関心を持ち続ける
 - たとえば、一般補助のノルマが大学で不足した場合、図書館がその一部をになって、予算獲得+補助金確保につなげる
- 大学側にできるだけ獲得した補助金をアピールする
 - 補助金はいくまでも経費補助であるから、まずは大学から予算をもらうことが第一。予算獲得のための切り札とする
- インセンティブなどを設定して図書館側のモチベーションを維持する

図書館マネジメントと補助金

目的：すべてのステークホルダーを満足させる

■ 図書館マネジメントに不可欠なもの

- サービスコンセプト
 - 人／物／施設／資金
- 資金を何にどれくらいどのように使うかはマネジメントの基本要素
 - 補助金の獲得によって、マネジメントの幅が広がる
 - 一部に犠牲を強いる仕組みは持続化しえない。

図書館運営のプロフェッショナルになることが必要

まとめ

- 事業団は、補助金を出したいと思っている
- 採択されなくても、失うものはない
- 補助金の獲得は図書館業務の評価可視化に繋がる
- 補助金の獲得は大学内のプレゼンスの向上に繋がる
- 多くのステークホルダーの利益は図書館の取り組み次第
- 予算組みや事業目的の明確化が補助金獲得の鍵
- 専任職員は図書館のプロであることが求められている
- 最終的には、図書館界全体のプレゼンスの向上を目指す



私立大学図書館協会東地区部会研究部 2009年度 研修分科会

ありがとうございました。